



阿武山観測所とは

【設立】

1927年3月7日に発生した北丹後地震 (M7.3, 犠牲者約3,000人) の後、地震研究を進めるため、1930年「阿武山地震観測所」として設立。

原奨学金の援助を受け、
地元から約3万坪の用地を300年間の契約で借用しました。

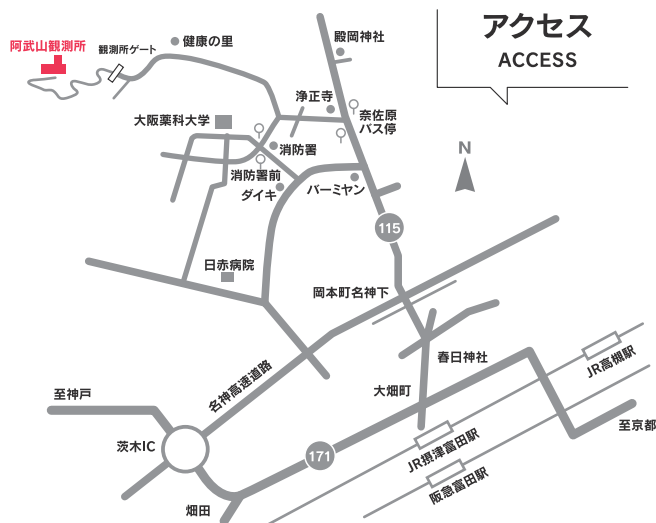
【立地】

大阪府高槻市の北方、標高281mの阿武山山頂から南へのびる尾根の先端頂部の山頂付近に立地し、塔の屋上や本館の2階以上からは大阪平野を一望できます。観測所の裏には藤原鎌足の墓と推定される阿武山古墳があります。

1934年に初代所長・志田順教授が
地震観測用のトンネルを掘削中に偶然発見したものです。

【建物】

阿武山の傾斜地形に合わせて作られた本館・西館2棟を、吹き抜けの玄関ホールでつないだ特徴的な設計です。
2007年、大阪府近代化遺産総合調査報告書に「注目すべき近代化遺産」として記載。
2014年、建設当初の雰囲気を残しつつ耐震工事・施設改修を行い、セミナー用の映像・音響設備、宿泊施設など、最新の設備を備えています。



JR摂津富田駅から高槻市バス

- ▶ 「公園阿武山行き」で「消防署前」下車、徒歩1,800m(約30分)
- ▶ 「奈佐原行き」「萩谷行き」で「奈佐原」下車、徒歩2,100m(約30分)

自家用車・タクシー

- ▶ 交差点「消防署」または「浄正寺」を経由して、観測所ゲートに入ってください
(一部未舗装区間あり)



京都大学防災研究所

地震予知研究センター 阿武山観測所
〒569-1041 大阪府高槻市奈佐原 9-44

HP <http://abuyama.com>

E-mail info@abuyama.com

FAX専用 072-692-3715 (電話によるお問い合わせはご遠慮ください)



ABUYAMA OBSERVATORY

阿武山観測所



京都大学防災研究所

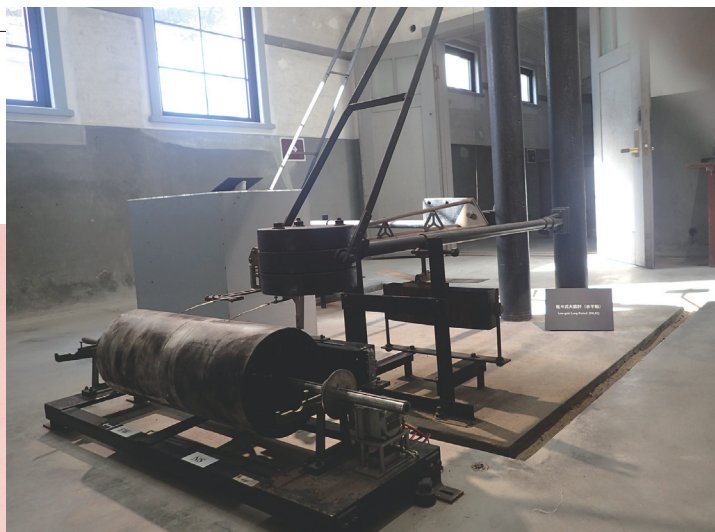
Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

阿武山地震観測所・サイエンスミュージアム

Abuyama Science Museum

1930年の設立以来の超大型地震計から最新の地震計まで、世界の地震観測の歴史を語ることができる地震計を多数展示しています。地震学の萌芽期から最新の研究成果まで、地震研究について一般の方にわかりやすく伝えるサイエンスミュージアムとして整備しました。

歴代地震計展示室[本館地階]



1934年 佐々憲三(日本)開発

佐々式大震計

満点地震計KVS-300



2008年 京都大学、近計システムほか(日本)開発

実施中の研究プロジェクト

次世代型稠密地震観測網「満点計画」

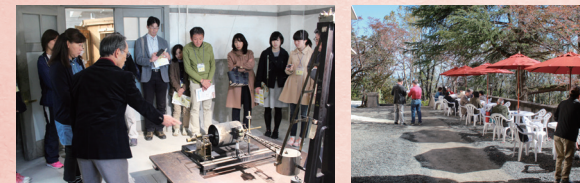
従来とは桁違いに点数を増やし、特定のエリアで高密度の地震観測を行おうとするのが「満点計画」です。地震データの質と量を飛躍的に高めようと2006年頃から取り組みを始めています。例えば、近畿地方中北部では従来の観測網の観測点の間隔は20~30kmですが、1km程度の間隔で高密度に観測点を配置することを目指しています。

満点計画を実現する「満点システム」

満点計画のため、2008年に開発された世界最先端の地震観測システムが「満点システム」です。「満点地震計」は、設置は簡単、価格も比較的安価で、高品質の地震データを長期間安定して記録できます。これまで得られなかったような観測・研究成果が得られ始めています。

一般見学会・団体見学会

月に2~3回、定期的に一般見学会を実施しています。また、10名以上のグループであれば、団体見学会としてご希望に合わせて別途日時の調整が可能です(都合によりご希望にそえない場合もあります。ご了承ください)。いずれも阿武山観測所ウェブサイトからお申し込みください。



市民ボランティア

阿武山サポーター会・阿武山グリーンクラブ

阿武山観測所では、「阿武山地震観測所・サイエンスミュージアムプロジェクト」の一端を担う市民ボランティアグループが活動しています。阿武山サポーター会は、所定の研修の修了者によって一般見学会や団体見学会の企画・運営を担うほか、地震観測などの調査にも参画しています。阿武山グリーンクラブは、観測所の広大な敷地の自然環境の保全や、環境整備のための活動を行っています。いずれのグループも随時メンバーを募集しています。詳しくは阿武山観測所ウェブサイトをご覧ください。



レポイル・バシュウイツツ式傾斜計



1896年 エルスト フォン レポイル・バシュウイツツ(ドイツ)開発

ウィーヘルト地震計



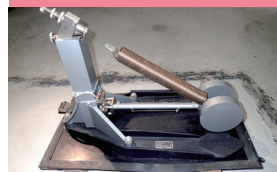
1904年 エミル・ウィーヘルト(ドイツ)開発

L4C



1950年頃 マーク・プロダクツ(アメリカ)開発

プレス・ユイーグ地震計



1953年 フランク・プレス・モリス・ユイーグ(アメリカ)開発

大森式地震計



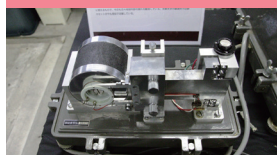
1898年 大森房吉(日本)開発
旧 京都大学理学部上質茂地学観測所から移設

ガリチン地震計



1910年 ボリス・ガリチン(ロシア)開発

PK110



1953年頃 勝島製作所(日本)開発

佐々式強震計



1956年 佐々憲三(日本)開発